

小合地域  
コミュニティ  
協議会

小合地域コミュニティ協議会(以下、小合コミ協)は令和元年度のモデルコミ協で、中学生以上全住民アンケートなどを行いました。結果を受けて「これからの小合コミ協の役割は、地域課題に取り組み、活性化へつなげること」と共通認識を新たに、優先項目から着手しています。



アンケートで取り組むべき課題が明らかになりました。  
地域活性化につながる事業を進めています！



1 小合東小学校の学童クラブ 令和3年4月からコミ協が開設

「学童保育がなく、保護者が困っている」と、小合東小学校から相談があり、コミ協が運営を引き受けようと、わずか5カ月で体制を整えました。「小合地域も核家族が増えてきた。地域で支え合いたい。アンケートでコミ協の役割を明確にしたことが、足並みを揃える原動力になった」と役員は話しています。



学童クラブ開設説明会

2 国道460号 小合バイパス早期開通を要望

古田交差点から小合小学校までは道幅が狭く、カーブが多い沿線に事業所などが多数点在することから、交通事故の不安があります。アンケートで環境改善を望む住民のニーズが高かったことから、新潟市長へ国道460号小合バイパス開通と、現国道の改良要望を行いました。



小合コミ協・新潟西部コミ協の役員と秋葉区選出の市議会議員で中原ハ一市長へ要望書提出(令和3年1月)

3 SNSの活用順調

アンケート結果で住民のインターネットやSNS利用率が高い数値を示したことから、市の補助金を活用し、LINEとFacebookの勉強会を8回開催しました。今では操作もだいぶ慣れて、役員同士の連絡はLINEでやり取り。コミ協活動の発信には広報誌とFacebookも活用中です。



小合コミ協のフェイスブック



お知らせ

全コミ協アンケート ご協力ありがとうございました

市内全99コミ協を対象に、コミ協活動実態および新型コロナウイルスの影響に関するアンケートを実施しました。防火防犯、健康づくり、空き家対策など、地域で行う活動や組織運営に関する17項目で理想(目標)と現状の自己評価を行ったところ、全市的にみると「若者の参加や担い手育成」「住民のニーズ把握」で理想と現状の差が大きく、多くのコミ協で課題として認識されています。また、感染症拡大で活動が制限されたため、活動そのものや、やり方を見直したいという傾向が見られました。結果は別途お知らせしますので今後の活動に活かしてください。

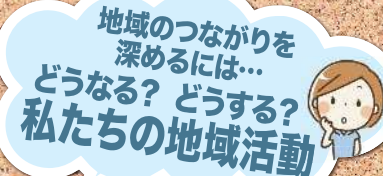
地域活動の運営などに関するお悩みや相談がありましたら、いつでもお気軽に各区役所地域課・地域総務課にご相談ください。



令和2年度 新潟市地域コミュニティ協議会育成モデル事業

第2号 モデルコミ協 活動紹介

連絡先  
新潟市民生活部市民協働課  
TEL: 025-226-1105



新潟市では持続可能な地域づくりを進めるため、令和元年度から活動や体制の見直しを行う「モデルコミュニティ協議会」を募集し、サポートをしています。人口減少や少子高齢化が加速し、つながりの希薄化や担い手不足は深刻です。加えて大雨や大雪、新型コロナウイルスの影響などもあり、多様化する地域課題にどのように取り組めばよいか悩んでいるコミ協も多いでしょう。今号では、これまでに取り組みを行った3つのコミュニティ協議会の事例を紹介します。

INDEX

- P.2 有明台小学校区コミュニティ協議会
- P.3 坂井輪中学校区まちづくり協議会
- P.4 小合地域コミュニティ協議会
- P.4 全コミ協アンケートについて

モデルコミ協の取り組み事例

- 1 現状を知り、将来の姿を予測する勉強会開催
- 2 住民のニーズを探る住民アンケートの実施
- 3 コミ協活動の実態調査と自己評価
- 4 ③を踏まえた、次年度の活動・体制の見直し

人口データなどから人口構成の推移などを読み解き、活動の方向性を探ります。  
地域活動は本当に住民が望む活動なのか、中学生以上にアンケートを行います。  
現在、コミ協活動にかけている時間と人数、内容や成果を見える化します。



みなさんは、そしてご家族は10年後の2031年 何歳?

有明台小学校区コミュニティ協議会による「第1回これからの地域活動を考える勉強会」(令和3年1月20日:有明台小学校 視聴覚室にて)



坂井輪中学校区まちづくり協議会による「アンケート入力作業説明会」(令和2年12月22日:坂井輪地区公民館にて)

エリア管内から人口構成比率に合わせて、中学生以上約3,000件のアンケートを実施しました。

アンケートのデータ入力も自分たちで行いました!



## 有明台小学校区 コミュニティ 協議会

有明台小学校区コミュニティ協議会（以下、有明台コミ協）は、令和2年度のモデルコミ協です。市とまちづくりの専門家（NPO法人まちづくり学校）がコーディネートし、活動の現状調査と意見交換を行いました。

地域の課題  
コミ協活動へ理解と参加を

担い手不足解消へ

自治会と  
コミ協の  
役割分担を  
明確に



有明台小学校区コミュニティ協議会 関川 弘雄 会長

有明台コミ協は、地域一体となった避難訓練や、有明台ひまわりクラブを利用する1人帰りの児童を自宅まで送る帰宅支援など、防災・防犯対策をはじめ地域の暮らしを支える多くの活動に取り組んでいます。

一方、活動への関心や理解は地域内で十分でなく、担い手不足で一部の人へ負担が偏りがちです。担当者がうまく連携できないなど、コミ協運営の仕組みが機能しない側面もあります。加えて新型コロナウイルスや、大雪、インシシの出現など、課題が多様化する中で、今度、どのように活動していけばよいのか、専門家を交えた勉強会を通してみんなで考えました。

### これからの地域活動を考える勉強会

第1回

#### 1 人口データなどから将来の姿を知る

将来は地域活動を担う中心世代である65歳～74歳が減少。少ない人手で取り組めるよう、活動の見直しと転換が必要と分かりました。

NPO法人まちづくり学校による将来予測の解説▶

#### 2 グループによる意見交換

活動に携わる人の顔ぶれが変わらず高齢化が進んでいる。人手が足りない。

若い人たちやリタイア後の方など、どうしたら担い手になってもらえるか。

出された改善策  
関わりやすさを考えてみては。

課題への対応や活動の見直しはどのようにやったらいいか。

地域住民の困りごとなど状況がよく分からない…。

出された改善策  
有志で聞き取りに出向き助け合うのはどうか。



第2回

#### 第1回の意見交換をもとに 実態や問題点を 深掘り

各事業の目的、良いところ、気になること、問題の原因、解決のアイデアなどを書き出しながら話し合いました。

#### 意見のポイント（抜粋・要約）

##### 交通安全に関する活動

部会や団体別でなく、関係者が連携して地域全体で考えていくことが必要。当事者による安全点検を行い、子どもから大人まで関心や参加を促す。

##### 五十嵐浜の地引網体験

子どもたちにとって貴重な思い出に残る体験。共催団体からの人手などが足りないため、準備段階から、または部分的に手伝える仕組みにしてはどうか。

#### 専門家のアドバイス

現状把握から始めることが重要。インターネットなど新しい情報発信手段を取り入れてみては？

作業内容や役割を明確にしておくに参加してもらいやすいです。何をサポートしてほしいか具体的に依頼しては？

実態や問題点を深掘りしました！  
コミ協の運営や活動の現状を共有するところからスタート。



### 第1回・2回参加者のふりかえり（抜粋・要約）

高齢化の進行が早いのがオドロキ！

従来の社会システムの見直し時期に来ていると実感。コミ協だけでは担いきれない行政の課題もあると思う。

自治会長の仕事が多すぎ。

若い人にSNSの先生をしてもらうなど、年代ごとに参加できるきっかけが必要。

自分の担当外の方と意見交換できて、知らないことが分かった。

コミ協のあり方、部会の連携など、根本的な整理が必要。

令和3年度も見直しの話し合いを続けていきます



### 有明台コミ協の実施内容と進め方

事前作業  
事務局業務の洗い出し  
作業量を把握する

#### 第1回勉強会

人口推移と予測から将来の姿を理解します。活動を通して感じていることを共有します。

活動見直しシートの作成  
現在行っている地域活動の内容や実施体制、良い点や改善点などを明らかにします。

#### 第2回勉強会

見直しシートにもとづき、活動内容や課題、今後の改善方法などを話し合います。

活動や実施体制の見直し案づくり

## 坂井輪中学校区 まちづくり 協議会

坂井輪中学校区まちづくり協議会（以下、坂中まち協）は、令和元年度からモデルコミ協となり、昨年度の活動評価を経て、今年度は中学生以上住民アンケートに取り組みました。

昨年度の解説

令和元年度は、人口データなどから将来の姿を予測する勉強会を行った後、坂中まち協の活動の実態を把握する「活動実績評価シート」を作成しました。

部会の事業ごとに、かけている時間や人数、成果などを記入して見える化し、ワークショップで発表しました。活動を見直すきっかけになっただけでなく、他部会からのアドバイスや励ましが意欲につながっています。活動実績評価シートは、活動の引継書としても活用できます。



### 令和2年度

令和2年度は、中学生以上住民アンケートを行いました。坂中まち協の様々な地域活動は、果たして住民のニーズに合っているかを検証し、持続可能な取り組みにしたいとの思いからです。

#### 中学生以上住民アンケート実施数

配布数：3,230通

回収数：2,699通

回答率  
83.56%

（令和2年10月～12月実施）

坂中まち協は大規模です。全住民にアンケートを取ることは難しいと判断し、坂井輪地区の3つの小学校区のバランスを考慮して選んだ自治会から約3,000名の住民と坂井輪中学校2年生全員に記入を依頼し、2,699名の回答がありました。これは地区の全人口（28,981人\_令和2年9月末新潟市住民基本台帳より）のほぼ1割が回答したことになります。

#### 坂中まち協事務局のコメント

アンケートの自治会への配布や回収とアンケートの入力作業のスケジュールが関係者のご協力により予定通り進んだことに感謝いたしております。又、アンケートにより坂中まち協の活動状況の様子、理解度が分かり、昨年度の「活動実績評価シート」とリンクさせ今後の活動のあり方に活用したいと考えております。

今後、分析を進め、これからの活動に生かしていく予定です。



### 坂中まち協の実施内容と進め方

人口データ（地域カルテ&国勢調査）から地域の現状と予測される将来の姿を知る

実績評価シートの作成

地域活動を事業ごとに、かけている時間や人数、成果などを評価してシートに記入します。

#### 第1回ワークショップ

予測される将来に向けて、これまでの活動の見直し方を学びます。

#### 第2回ワークショップ

活動評価シートをもとに、内容や課題を発表。感想や提案を共有します。

#### 令和2年度 中学生以上住民アンケート実施

アンケート項目の設定・配布回収・入力は自分たちで行います。

アンケート結果報告  
分析結果を元に今後の事業を検討